

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10, 25, 50, 75, 90パーセンタイル値, 平均, 分散, 歪度, 尖度も計算する。

(4) 集計結果の例

表題：平成8年，外来  
 表頭：地域区分  
 表側：主傷病名

		北海道		沖縄
主傷病名	う歯症		(略)	
	(略)			
	外因			

8. 医療施設静態調査票病院, 医療施設静態調査一般票病院, 医療施設静態調査特殊診療機能調査票病院, 医療施設静態調査特殊票病院, 医療施設静態調査調査票病院 (I), 医療施設静態調査調査票病院 (II), 医療施設静態調査病院票 (I), 医療施設静態調査病院票 (II), 医療施設静態調査病院票, 医療施設調査票病院, 医療施設静態調査票一般診療所, 医療施設静態調査一般票一般診療所, 医療施設静態調査特殊診療機能調査票一般診療所, 医療施設静態調査特殊票一般診療所, 医療施設静態調査調査票一般診療所, 医療施設静態調査一般診療所票, 医療施設調査票一般診療所, および患者調査一般診療所票, 患者調査病院退院票, 患者調査一般診療所退院票, 患者調査病院 (奇数票), 患者調査病院 (偶数票), 患者調査一般診療所退院票, 患者調査病院票, 患者調査病院 (入院) 票, 患者調査病院 (外来) ・一般診療所票, 患者調査病院・一般診療所退院票, 患者調査患者票 (病院・一般診療所), 患者調査退院患者票 (病院・一般診療所), 患者調査施設票, 患者調査患者票, 患者調査退院患者票の集計

(1) 表題項目

項目名	
1.	調査年度
2.	地域区分
3.	開設者
4.	許可病床数
5.	社会保険診療等の状況
6.	承認等の状況

(2) 表頭項目

項目名	
1.	主傷病名別患者数割合による医療機関分類
2.	副傷病名別患者数割合による医療機関分類
3.	診療科別患者数割合による医療機関分類
4.	平均入院期間による医療機関分類
5.	手術前平均入院期間による医療機関分類

## (3) 表側項目 (集計対象：医療機関数)

項目名	
1.	診療科別病床あたり1日外来患者数(注2)
2.	診療科別病床あたり在院患者数(注2)
3.	診療科別外来患者数割合(注2)
4.	診療科別在院患者数割合(注2)
5.	診療科別外来入院患者数比(注2)
6.	主傷病名別患者数割合(注2)
7.	副傷病名別患者数割合(注2)
8.	施設で定めた専用病床等の割合(注2)
9.	老人病院の状況
10.	病床あたり延床面積(注2)
11.	1人室の割合(注2)
12.	併設施設の状況
13.	病床あたりの従事者数(注2)
14.	診療報酬点数表の状況
15.	特定人のためにのみ開設の状況
16.	救急告示の状況
17.	救急のための当直体制の状況
18.	救急医療体制の状況
19.	地域当番医制参加
20.	各種委員会の設置状況
21.	医療ガス安全・管理委員会の状況
22.	薬剤委員会
23.	土曜日の診療状況
24.	週休二日制の状況
25.	休日(日曜・祝日)診療
26.	夜間診療
27.	予約診療の状況
28.	在宅医療サービスの状況
29.	訪問看護の状況
30.	在宅医療機器の貸し出し
31.	保健事業等
32.	へき地診療
33.	麻酔科標榜医(注2)
34.	麻酔および手術の状況(注2)
35.	特殊診療の状況
36.	専門外来・入院の状況
37.	特殊な病棟
38.	主な診療機器
39.	リハビリテーションの状況
40.	手術件数(注2)
41.	移植手術
42.	歯科設備の状況
43.	設備概況
44.	特殊診療設備の状況(注2)
45.	病床あたりの診療機器の保有状況(注2)
46.	給食(夕食)の状況
47.	基準給食の実施状況
48.	患者用サービス施設の状況
49.	委託の状況
50.	感染性廃棄物処理
51.	診療録管理専任従事者
52.	診療情報管理の状況
53.	情報システム整備状況
54.	電子計算機利用状況

55.	他の医療機関への患者の紹介・転送状況（注2）
56.	設備等の他施設医師への開放
57.	開放型病院
58.	基準看護の実施状況
59.	病棟看護職員の勤務体制（看護体制）
60.	看護婦等の週休状況
61.	院内保育の状況
62.	院外処方箋の発行状況（注2）
63.	医薬品情報の提供・管理の状況
64.	臨床検査の精度管理の実施状況
65.	特殊臨床検査の実施状況
66.	臨床検査の状況
67.	院内病理組織検査の状況
68.	臨床検査外注状況
69.	院内検査の状況
70.	剖検（注2）
71.	臨床病理学的症例検討会の実施状況
72.	病理・臨床検査専任医師
73.	輸血用院内採血
74.	平均入院期間（注2）
75.	平均手術前入院期間（注2）
76.	従事者数（注2）
77.	天候

（注1）標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

（注2）表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10、25、50、75、90パーセンタイル値、平均、分散、歪度、尖度も計算する。

（4）集計結果の例

表題：平成8年，全国，医療法人，20～49床，保険医療機関，総合病院

表頭：主傷病名別患者数割合による医療機関分類

表側：診療科別病床あたり1日外来患者数

		感染症・寄生虫症 (A00-B99) (注)			損傷・中毒・外傷 (S00-T98) (注)			
		～1%	1～5%	5%～	～1%	1～5%	5%～	
診療科別 1日外来 病床あたり 患者数	内科	平均	(診療科別病床あたり1日外来患者数)			(診療科別病床あたり1日外来患者数)		
		分散						
		歪度						
		尖度						
		10パーセンタイル値						
		25パーセンタイル値						
		50パーセンタイル値						
		75パーセンタイル値						
		90パーセンタイル値						
		～0.1(人/床)						
		0.1～0.3	(医療機関数)			(医療機関数)		
	0.3～							

(注)標本数が著しく少なくならないように主傷病名大分類別に最大3階級に分類

9. 医療施設静態調査票歯科診療所，医療施設静態調査一般票歯科診療所，医療施設静態調査調査票歯科診療所，医療施設静態調査歯科診療所票と患者調査歯科診療所票，患者調査患者票（歯科診療所）の集計

(1) 表題項目

項目名	
1.	調査年別
2.	地域区分
3.	開設者
4.	許可病床数
5.	社会保険診療等の状況

(2) 表頭項目

項目名	
1.	主傷病名別患者数割合による医療機関分類
2.	副傷病名別患者数割合による医療機関分類

(3) 表側項目（集計対象：医療機関数）

項目名	
1.	施設と管理者住所同一
2.	許可病床数（注2）
3.	特定人のための開設
4.	診療科目
5.	小児歯科
6.	歯科矯正
7.	口腔外科
8.	設備概況
9.	歯科設備
10.	刷掃指導室
11.	歯科技工室
12.	従事者数（注2）
13.	保健事業等の状況
14.	表示診療時間
15.	外来診療の状況（診療状況）（注2）
16.	外来患者数
17.	予約診療の状況
18.	院外処方箋の発行状況（注2）
19.	在宅医療サービスの実施状況
20.	訪問診療等の実施状況
21.	休日（日曜・祝日）診療の状況
22.	夜間診療の状況
23.	休日・夜間専門診療所
24.	地域医療当番医制等への参加
25.	初期救急医療体制等への参加
26.	他科の医療機関との連携状況
27.	患者の他施設への紹介（診療情報提供）状況（注2）
28.	感染性廃棄物処理
29.	技工物の外注状況
30.	電子計算機利用
31.	請求事務委託の状況

（注1）標本数が著しく少なくなる場合は，公表しないか，適宜分類項目の統合を図る。また，各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10, 25, 50, 75, 90パーセンタイル値, 平均, 分散, 歪度, 尖度も計算する。

(4) 集計結果の例

表題：平成8年，全国，個人，0床，保険医療機関

表頭：主傷病名別患者数割合による医療機関分類

表側：1日あたり外来患者数

		う歯症 (注)			(略)	外因 (注)		
		~1%	1~5%	5%~		~1%	1~5%	5%~
1日あたり外来患者数	平均	(1日あたり外来患者数)			(略)	(1日あたり外来患者数)		
	分散							
	歪度							
	尖度							
	10パーセンタイル値							
	25パーセンタイル値							
	50パーセンタイル値							
	75パーセンタイル値							
	90パーセンタイル値							
	~10							
	10~30							
30~								

(注)標本数が著しく少なくならないように主傷病名別に最大3階級に分類

10. 医療施設静態調査票病院，医療施設静態調査一般票病院，医療施設静態調査特殊診療機能調査票病院，医療施設静態調査特殊票病院，医療施設静態調査調査票病院（Ⅰ），医療施設静態調査調査票病院（Ⅱ），医療施設静態調査病院票（Ⅰ），医療施設静態調査病院票（Ⅱ），医療施設静態調査病院票，医療施設調査票病院，

医療施設静態調査票一般診療所，医療施設静態調査一般票一般診療所，医療施設静態調査特殊診療機能調査票一般診療所，医療施設静態調査特殊票一般診療所，医療施設静態調査調査票一般診療所，医療施設静態調査一般診療所票，医療施設調査票一般診療所，医療施設動態調査票，および患者調査一般診療所票，患者調査病院退院票，患者調査一般診療所退院票，患者調査病院（奇数票），患者調査病院（偶数票），患者調査一般診療所退院票，患者調査病院票，患者調査病院（入院）票，患者調査病院（外来）・一般診療所票，患者調査病院・一般診療所退院票，患者調査患者票（病院・一般診療所），患者調査退院患者票（病院・一般診療所），患者調査施設票，患者調査患者票，患者調査退院患者票の集計

(1) 表題項目

項目名	
1.	調査年1
2.	調査年2
3.	地域区分
4.	開設者
5.	許可病床数

(2) 表頭項目

項目名	
1.	主傷病名別患者数割合変化量による医療機関分類 (注3)
2.	副傷病名別患者数割合変化量による医療機関分類 (注3)

- |    |                           |
|----|---------------------------|
| 3. | 診療科別患者数割合変化量による医療機関分類（注3） |
| 4. | 平均入院期間変化量による医療機関分類（注3）    |
| 5. | 手術前平均入院期間変化量による医療機関分類（注3） |

注) 個々の医療機関における調査年1に対する調査年2での各項目の変化量を計算して集計する。

(3) 表側項目（集計対象：医療機関数）

項目名	
1.	診療科別病床あたり1日外来患者数変化量（注2, 3）
2.	診療科別病床あたり在院患者数変化量（注2, 3）
3.	診療科別外来患者数割合変化量（注2, 3）
4.	診療科別在院患者数割合変化量（注2, 3）
5.	診療科別外来入院患者数比変化量（注2, 3）
6.	医療機関別主傷病名別患者数割合変化量（注2, 3）
7.	医療機関別副傷病名別患者数割合変化量（注2, 3）
8.	地域当番医制参加変化量（注2, 3）
9.	各種委員会の設置状況変化量（注2, 3）
10.	在宅医療サービスの状況変化量（注2, 3）
11.	訪問看護の状況変化量（注2, 3）
12.	保健事業等変化量（注2, 3）
13.	麻酔科標榜医変化量（注2, 3）
14.	麻酔および手術の状況変化量（注2, 3）
15.	特殊診療の状況変化量（注2, 3）
16.	特殊な病棟変化量（注2, 3）
17.	主な診療機器変化量（注2, 3）
18.	歯科設備の状況変化量（注2, 3）
19.	設備概況変化量（注2, 3）
20.	特殊診療設備の状況（注2, 3）
21.	病床あたりの診療機器の保有状況変化量（注2, 3）
22.	委託の状況変化量（注2, 3）
23.	診療録管理専任従事者変化量（注2, 3）
24.	他の医療機関への患者の紹介・転送状況変化量（注2, 3）
25.	基準看護の実施状況変化量（注2, 3）
26.	病棟看護職員の勤務体制（看護体制）変化量（注2, 3）
27.	院外処方箋発行割合変化量（注2, 3）
28.	特殊臨床検査の実施状況変化量（注2, 3）
29.	臨床検査の状況変化量（注2, 3）
30.	剖検割合変化量（注2, 3）
31.	平均入院期間変化量（注2, 3）
32.	平均手術前入院期間変化量（注2, 3）
33.	従事者数変化量（注2, 3）

（注1）標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

（注2）表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10, 25, 50, 75, 90パーセンタイル値, 平均, 分散, 歪度, 尖度も計算する。

（注3）調査年1に対する調査年2での変化量を計算する。



## (4) 集計結果の例

表題：平成10年、A保健所

表頭：年齢階級別

表側：死亡の場所の種類

		総数	0歳	1歳	(略)	99歳	100歳以上	不詳	
死亡 場所	病院								
	(略)								
	その他								

## 1.2.人口動態調査死亡票の集計

## (1) 表題項目

項目名
1. 調査年 (1歳未満病死)
2. 保健所

## (2) 表頭項目

項目名
1. 生存期間
2. 死亡月
3. 出生児の体重

## (3) 表側項目

項目名
1. 死因・性
2. 死亡の場所の種類
3. 国籍
4. 配偶関係
5. 仕事
6. 手術の有無
7. 解剖の有無
8. 母側病態
9. 単多胎別
10. 妊娠関係
11. 母の年齢
12. 前回の妊娠

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 人口動態調査死亡票の日本外での死亡は除く。



## (4) 集計結果の例

表題：平成10年、A保健所

表頭：生存期間

表側：死亡の場所の種類

		総数	1日(24時間未満)	1日	2日	(略)	11ヶ月
死亡 場所	病院						
	(略)						
	その他						

## 1.3.人口動態調査死産票の集計

## (1) 表題項目

項目名
1. 調査年
2. 保健所

## (2) 表頭項目

項目名
1. 年齢階級別
2. 死産月
3. 妊娠期間
4. 死産児の体重
5. 死産児の身長
6. 自然人工
7. 母側原因

## (3) 表側項目

項目名
1. 死因・性
2. 死亡の場所の種類
3. 国籍
4. 嫡・否
5. 仕事
6. 子の数
7. 単多胎別
8. 児側原因
9. 原死因状況
10. 死産原因
11. 手術の有無
12. 解剖の有無

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 人口動態調査死亡票の日本外での死亡は除く。

## (4) 集計結果の例

表題：平成10年、A保健所

表頭：年齢階級別

表側：死亡の場所の種類

		総数	0歳	1歳	(略)	99歳	100歳以上	不詳	
死亡 場所	病院								
	(略)								
	その他								

## 1.4. 国民生活基礎調査健康票の集計

## (1) 表題項目

項目名	
1.	調査年

## (2) 表頭項目

項目名	
1.	地域区分
2.	性別
3.	年齢階級

## (3) 表側項目

項目名	
1.	入院・入所中かとその時期
2.	自覚症状の有無とその状況
3.	通院の有無とその状況
4.	かかりつけ医の有無とその状況
5.	日常的就床状態
6.	健康問題の生活への影響の状況
7.	最近1ヶ月間の1日中床についていた日数
8.	現在の健康状態
9.	身長、体重
10.	悩みストレスの有無とその状況
11.	検診の受診状況
12.	日頃実行していること

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(4) 集計結果の例

表題：平成10年  
 表頭：地域区分×年齢階級×性別  
 表側：傷病名

		地区A (注)					地区N (注)				
		～15歳		(略)	75歳～		～15歳		(略)	75歳～	
		男	女		男	女	男	女		男	女
傷病名	高血圧症										
	(略)										
	その他										

(注) 15歳毎の年齢階級別に集計

1.5. 医療機関の専門性に関する分析の結果表

分析結果表1から10より医療機関の専門性を特徴づける種々の医療施設特性および患者特性を求める。これらの特性を個々の医療施設ごとに主成分分析によって集約した上で、クラスター分析により各医療機関を類型化分類する。

	クラスターA	クラスターB	～	クラスターN
地域別医療機関数				
病床規模別医療機関数				
開設者別医療機関数				
等				

(注) 分類された医療機関数が少なく個別の医療機関が同定されるおそれのある場合は結果を公表しない。

1.6. 医療機関の専門性の変遷に関する分析の結果表

個々の医療機関が各調査年次において所属するクラスター（分析結果表15のクラスター分析から得られるもの）を求め、時系列リンクにより調査年Xから調査年Yへの所属クラスターの変遷の状態を二次元表に集約する。さらに、所属グループの変遷から新たな因子を抽出し、経時変遷を加味した再クラスター分析を行った上で各施設の類型化分類を行う。

		調査年Y			
		クラスターA	クラスターB	～	クラスターN
調査年X	クラスターA				
	クラスターB				
	～				
	クラスターN				

(注) 分類された医療機関数が少なく個別の医療機関が同定されるおそれのある場合は結果を公表しない。

## 分析結果表

## 1. 病院報告患者票，病院報告従事者票の集計

## (1) 表題項目

項目名	
1.	調査年
2.	地域区分
3.	許可病床数
4.	開設者

## (2) 表頭項目

項目名	
1.	医療機関別平均入院期間

## (3) 表側項目 (集計対象：医療機関数)

項目名	
1.	従事者数 (注2)
2.	病床稼働率 (注2)
3.	在院新生児延数
4.	新生児平均在院日数

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10, 25, 50, 75, 90パーセンタイル値, 平均, 分散, 歪度, 尖度も計算する。

## (4) 集計結果の例

表題：平成8年，全国，20～49床，医療法人

表頭：医療機関別平均入院期間

表側：病床稼働率

		医療機関別平均入院期間					
		a. ～20日	b. 20～25日	c. 25日～			
病床稼働率	平均	(病床稼働率)					
	分散						
	歪度						
	尖度						
	10パーセンタイル値						
	25パーセンタイル値						
	50パーセンタイル値						
	75パーセンタイル値						
	90パーセンタイル値						
	a. ～70%				(医療機関数)		
	b. 70～80%						
c. 80%～							

## 2. 受療行動調査入院患者票、受療行動調査入院患者票の集計

## (1) 表題項目

項目名	
1.	調査年
2.	入院・外来
3.	地域区分

## (2) 表頭項目

項目名	
1.	性
2.	初診・再診
3.	年齢階級

## (3) 表側項目 (集計対象：医療機関数)

項目名	
1.	病室
2.	病院選択で参考にしたこと
3.	病院を選んだ理由
4.	他院受診歴と通院先変更理由
5.	医療機関に関するほしい情報
6.	かかりつけ医の状況
7.	来院目的
8.	通院時間
9.	交通費
10.	治療を初めてからの期間
11.	初回受診であるか
12.	入院までの待ち期間
13.	予約の有無
14.	診察待ち時間
15.	診察時間
16.	診察後待ち時間
17.	現在の身体の状態
18.	現在の病気の状態
19.	自分の健康状態
20.	医師からの説明の状況
21.	説明者
22.	説明内容
23.	説明の評価
24.	説明書の有無
25.	説明不足の事項
26.	説明内容の理解度
27.	説明が無いときの対応
28.	カルテ開示希望
29.	開示希望理由
30.	退院後の治療
31.	今後の治療
32.	今後の療養
33.	薬の有無
34.	院外処方
35.	世話人
36.	家庭療養に必要なこと
37.	入院についての感想

- |     |           |
|-----|-----------|
| 38. | 受診についての感想 |
| 39. | 外来待ち時間    |
| 40. | 診察時間      |

(注1) 標本数が著しく少なくなる場合は、公表しないか、適宜分類項目の統合を図る。また、各調査票の該当項目が無い場合はデータ欠損として他に影響を及ぼさないように処理する。

(注2) 表頭項目毎に標本数が十分に大きい場合には10, 25, 50, 75, 90パーセンタイル値, 平均, 分散, 歪度, 尖度も計算する。

(注3) 表側項目は、各調査年, 入院外来別に該当項目が存在するもののみを集計する。

#### (4) 集計結果の例

表題：平成8年，入院，全国

表頭：初診・再診別

表側：受療理由

		初診再診別	
		0. 総数	1. 初診
受療理由	1	患者数	
	2		
	3		
	(略)		
	15		

## 参考文献一覧

1. 長谷川 敏彦 他、病院 1997 56:1058-1062
2. 福島 敦 他、病院管理学会雑誌 1998 35:7-16
3. 長谷川 敏彦、平成 10 年度厚生省統計情報高度利用総合研究事業
4. 徳田 禎久、病院 1999 58:402-407
5. 伏見 清秀 他、病院管理学会雑誌 2000 37:225-232
6. 全日本病院協会「病院のあり方に関する報告書」 2000
7. 厚生問題研究会、全国病院名鑑 2002
8. 大竹美喜編、医療ビックバンのすすめ、日本放送出版協会
9. 西村周三監修、医療ビックバン、日本医療企画社
10. 滝上 宗次郎 著、医療・福祉シリーズ 52 厚生行政の経済学、勁草書房
11. 広井良典著、アメリカの医療政策と日本、勁草書房社
12. 川淵孝一著、DRG/PPS の全貌と問題点、薬業時報社
13. 川淵孝一著、DRG/PPS 導入の条件と環境－日本版診断群別包括支払方式のインフラ整備、薬業時報社
14. 久繁 哲徳 著、最新・医療経済学入門、医学通信社
15. 川淵孝一著、医療保険改革と日本の選択 ヘルスケア・リフォームの処方せん、薬事日報社
16. 武田隆久監修、医療サービスにおける品質保証と標準化、メジカルフレンド社
17. 川淵孝一、これからの病院マネジメント、医学書院
18. 山岡和枝 著、医療と社会の計量学、朝倉書店
19. 二木 立 著、保健・医療・福祉複合体、医学書院
20. 鍋田忠彦、日本の医療経済、東洋経済
21. 池上直己著、医療の政策選択、勁草書房社
22. 西村周三訳、臨床経済学、篠原出版
23. 郡司篤晃、医療システム研究ノート、丸善
24. 社会保障研究所 編、医療保障と医療費、東京大学出版会
25. 三木 毅、医療経済学、金原出版
26. 二木 立 著、日本の医療費 国際比較の視角から、医学書院
27. 長谷川敏彦 監修、クリティカル・パスと病院マネジメント-その理論と実際、薬業時報社
28. 漆 博雄、医療経済学、東大出版界
29. 山本 研二郎 監、透析療法の医療経済、日本メディカルセンター
30. 中野 進 著、新・医師の世界、勁草書房
31. "佐藤祐子 訳、Mattison, R 著", データマイニング・戦略と活用、富士通ブックス

- 3 2. 平尾隆行著,標準データベーススペシャリスト教科書,オーム社
- 3 3. 藤本康秀訳,データウェアハウス「構築編」,オーム社
- 3 4. 藤本康秀訳,データウェアハウス「運用編」,オーム社
- 3 5. 藤本康秀訳,データウェアハウス「活用編」,オーム社
- 3 6. 佐藤祐子訳,データウェアハウス・戦略と現状,富士通ブックス
- 3 7. 藤本康秀訳,データウェアハウスツールキット,日経 BP 社
- 3 8. 富士通 SSL 訳,データウェアハウス・構築と活用,富士通ブックス
- 3 9. 縣 俊彦 著,基本医学統計学 その医学研究への応用,中外医学社
- 4 0. 丹後俊郎 著,ロジスティック回帰分析,朝倉書店
- 4 1. 丹後俊郎 著,統計学のセンス,朝倉書店
- 4 2. 宮原英夫 著,医学統計学ハンドブック,朝倉書店
- 4 3. ヴィッカーリー, B. /ヴィッカーリー, A.著/津田 良成 監訳,情報学の理論と実際,勁草書房
- 4 4. 医療経済研究機構、アメリカ医療関連データ集 2000
- 4 5. 医療経済研究機構、フランス医療関連データ集 2000
- 4 6. 医療経済研究機構、イギリス医療関連データ集 2000
- 4 7. 医療経済研究機構、ドイツ医療関連データ集 2000
- 4 8. 医療経済研究機構、スウェーデン医療関連データ集 2000
- 4 9. 米国のヘルスケアビジネス
- 5 0. 厚生省、欧米諸国の医療保障
- 5 1. 経済産業省、医療問題研究会報告書
- 5 2. アメリカ医療の夢と現実
- 5 3. Herzlinger RE., The managerial revolution in the U.S. health care sector: lessons from the U.S. economy.
- 5 4. Boydell L. , European prototype for integrated care.
- 5 5. Hunter DJ. Managing alliances for health.
- 5 6. Klazinga N. , Re-engineering trust: the adoption and adaption of four models for external quality assurance of health care services in western European health care systems.
- 5 7. Kroneman MW., Health policy as a fuzzy concept: methodological problems encountered when evaluating health policy reforms in an international perspective.
- 5 8. Kilpatrick AO. Beasley LW. , Urban public hospitals: evolution, challenges, and opportunities in an era of health reform.
- 5 9. Hillman K., The changing role of acute-care hospitals.